

ジンバブエを通じて私たちの生活を知ろう

竹内右子 川崎市立御幸中学校

実践教科：総合的な学習の時間、国語・10時間

対象学年：2学年 対象人数：158名

(1) 実践の目的

大自然の中に位置するアフリカの地、ジンバブエには限りない魅力があり感動したが、その拠点には、どこにも「人」が存在していた。特にジンバブエと日本をつなぐ海外青年協力隊員の活動の足跡に心をうたれた。

ジンバブエの地で出会ったたくさんの感動を伝えるためにはどのようにしたらよいのだろう。開発教育に初めて取り組むものとして、伝えたいことはたくさんあるのにそれを形にするのは難しい。だから「知ってほしい・考えてほしい」という気持ちをそのままつなげていった授業である。中学生は、進路学習の一環として、「生き方の学び」がある。職業体験学習などもあり、人の生き方や職業観を育てる必要のある時である。「開発教育」を始めるために、まず中学生の普段の視点から取り入れることにしてみた。特別なことではなく、普段の学習の延長として、「気づかせたい・発見させたい」ということの契機とすることが本実践の目的である。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 学活 (人権教育) テーマ：地球の仲間たち ねらい：いろいろな国に住む人を写真を通じ、理解し、自分との違いや同じところを発見する 「人」としての共通点や違いを発見させる。	体験型ワークショップ (各クラス) ① イスを輪にして座り、真ん中に写真をばらまく。各自、一枚を選び、それをもとにフルーツバスケットを行う。 ② シェアリング ゲームを通じて、「人」という観点で世界を見た時に感じたことを話し合い、共有させる。	①いろいろな国の写真 人が活動している様子が中心に写っているもの。 ②ジンバブエで収集した写真。 ③海外に行ったことのある生徒が収集した写真。 ④『世界が百人の村だったら』 (参考資料) 開発教育セミナー初級編にてのワークショップより
2 限目 総合 テーマ：ジンバブエを通じて日本を知ろう	フォトランゲージ学習 (学年) ① ジンバブエで収集した写真を70	①ジンバブエで収集した

<p>ねらい：フォトランゲージを通して、世界を知り、自分たちの生活を考えてみる。</p>	<p>枚程度使用し、スライドショーにて紹介。</p> <p>② その中から印象に残った写真を3枚、選はせる。</p> <p>③ いくつかの観点については、立ち止まり考えさせる。</p> <p>*制服の違う生徒 *筆記具</p> <p>*教科書</p> <p>生徒の反応から解説をしたものもある。</p>	<p>写真。パワーポイントにて編集。</p> <p>②プリント</p> <p>③Google Earth</p>
<p>3 限目 道徳</p> <p>テーマ：自分達にとって大切なものを考えよう</p> <p>ねらい：自分にとって大切なものとは何か考える。</p>	<p>大切なものランキング（各クラス）</p> <p>① プリントを使用し、自分にとって大切なものをダイヤモンドランキングに記入させる。</p>	<p>①プリント</p>
<p>4 限目 総合</p> <p>テーマ：協力隊員の活動から生き方を学ぶ</p> <p>ねらい：海外で活動する協力隊員の姿から生き方について考えよう</p>	<p>① 御幸中学校版大切なものランキングの発表</p> <p>② ジンバブエの結果と比べさせる</p> <p>③ なぜか考えさせる</p> <p>④ ジンバブエの教育事情を考えさせる</p> <p>* 日本のピアニカを吹くジンバブエの子ども</p> <p>* 『乾杯』を歌うジンバブエの子ども</p> <p>* 青年海外協力隊の人の活動の足跡</p> <p>* 人の生き方について考えさせる</p>	<p>① パワーポイントによる資料のまとめ</p> <p>② プリント</p> <p>③ ジンバブエで収集した写真。</p> <p>④ ジンバブエで撮影したビデオ</p>
<p>5 限目 総合</p> <p>テーマ：ようこそ先輩！ 深山知美さんの講演</p> <p>「生き方を知ろう！」</p> <p>ねらい：青年海外協力隊の活動をした方のお話を聞き、その活動に興味関心を深め、次時の展開</p>	<p>①青年海外協力隊でジンバブエで実際に活動した、JICA 深山さん（ジンバブエ同行）のお話を聞き考える。</p> 	<p>① 深山さんのパソコン資料（パワーポイント資料）</p> <p>② 感想用紙（深山さんに手紙を書こう）</p>

<p>のステップとする。</p>		
<p>6・7・8 限目 国語 テーマ：国際ボランティアとは ねらい：「マドゥーの地で」という単元から国境無き医師団について知る。</p>	<p>*中2国語の教科書の教材「マドゥーの地で」を通して、「国境なき医師団」の活動をもとに、国際ボランティアの仕事について考えさせる。</p> <p>6時 内容把握「国境無き医師団」について理解させる。</p> <p>7時 作者の行動をロールプレイングを通し、自分の立場や現地の人になって考えさせる。</p> <p>8時 「真のボランティア」とは何か考えさせる。私たちができることについて考えさせる。</p>	<p>① 光村図書・中2国語「マドゥーの地で」貫戸 朋子</p> <p>② 「国境無き医師団」講演会</p> <p>(昨年度来校のことを思い出して)</p>
<p>9・10 限目 総合 テーマ：日本とジンバブエをつなぐ踊り ねらい：違いや共通点を見いだしてきたジンバブエの子ども達が踊るよさこいソーランという共通の学習を通し、自分自身を振り返る</p>	<p>(実施予定)</p> <p>ジンバブエの子どもが踊るよさこいソーランを見て、表現活動の違いや、共通点を考えさせる。</p> <p>*よさこいソーランを通じて、自己表現方法についての違いを考える。</p> <p>*共通の取り組みである「よさこいソーラン」のジンバブエの子ども達の踊りから自分のことを振り返りさせる。</p>	<p>①ジンバブエの子ども達が踊るよさこいソーランのビデオ</p> 

<生徒の感想>

写真からわかったこと・気づいたこと (2時)

- 勉強に対する気持ちがやる気がありそうで、よい表情をしていた。
- 日本と比べて貧しい部分もあったが、助け合いをされていて、辛い顔をしている人はいなかった。
- 自然ばかりあるのかと思ったら、建物がビルでびっくりした。日本と変わらない。
- ビルのある写真と水汲みの女の子の写真の風景は、全く逆で、何でこんなに違うのだろうと思った。
- 学級委員の制服が違うことは、驚いた。 ●教科書や紙は大切なんだ。
- 楽しそうにソーランを踊っていてびっくりした。

印象に残った写真で多かったもの

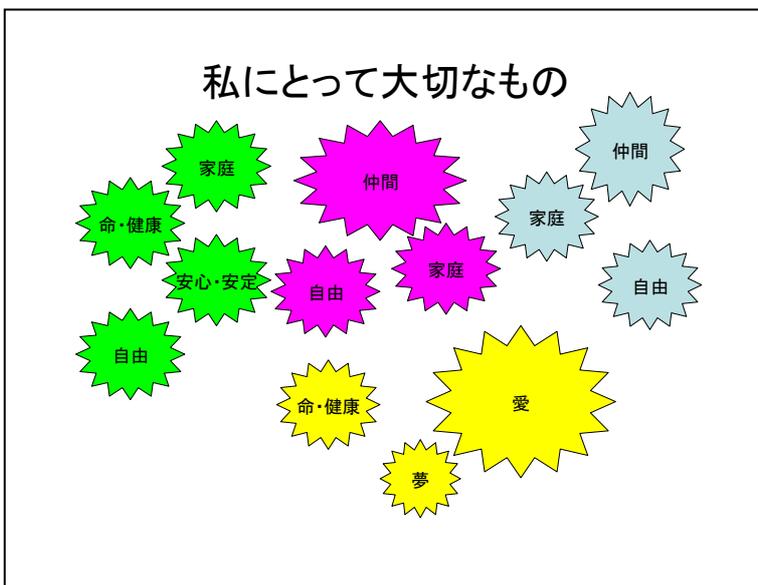
- *制服の色が違う学級委員
- *2・3人で見ている教科書
- *先生がソーランを教えているもの
- *ビクトリアの滝



帰り際、『乾杯』を日本語で歌ってくれた。

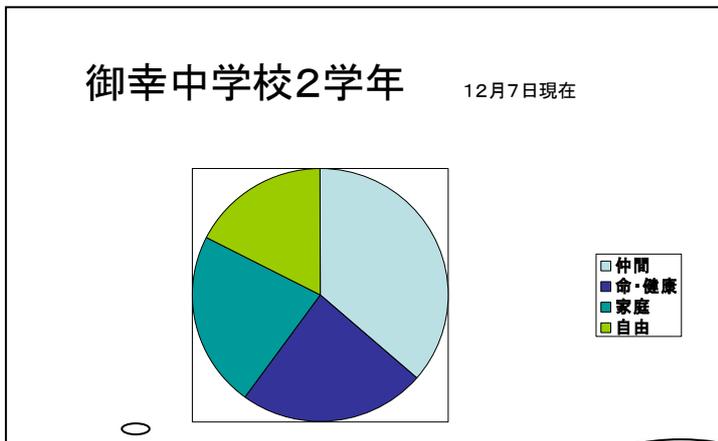


大切なもののランキング（御幸中学校）（3時）



大切なもののランキングを御幸中学校にでも行った。子供たちにとっては、興味をひく質問であったようで、夢中になって考えたり、休み時間の話題にのぼるほどであった。

クラスごとのランキングを発表した時は拍手がおこった。



- 1組・・・①家族②命・健康②安定③自由
- 2組・・・①仲間②家族③自由
- 3組・・・①愛②命・健康③夢
- 4組・・・①仲間②家族③自由
- 2学年全体 ①仲間②命・健康③家庭④自由

人が思っていることは一人一人違うのだとわかった。

日本と違って「教育」が大切だということに驚いた。私たちは義務教育であたりまえに思っていた。勉強したくてもできない子がいるという現実を知りました。

深山さんの講演感想

- 私たちの周りにいる子の中からも協力隊に参加することができるのかもしれないと思った。
- 普通に旅行に行くのと協力隊員としていくのは全く違うし、やってみたくなった。
- 一人で行くのはドキドキするけれど、仲間ができるから楽しいのだろうと思いました。

開発教育でやった授業を通して、考えたこと（生徒感想）

☆イメージ

- 一人の人間としてやりたいことや食べたいもの、ほしいものは、考え方が一緒なのだと思う。苦しい生活をしている人の方が、強い意志、生きる望みをしっかりと持っていると思った。楽しそうにいきいきと生きている。一生懸命生きている。
- アフリカなどは貧しく、みんな笑顔もなく、つらい思いをしている人たちしかいないと思っていた。授業を受けて、アフリカやジンバブエの人たちも私たちと変わりなく幸せそうに暮らし、（金銭面でなく）楽しそうな笑顔で生活していることを知った。
- 開発教育を通して、その国の現状を知れて見方もすごく変わったし、そういう国の裏では、たくさんの人が動いていることを知って、僕も何かできないかという気持ちになりました。
- 技術面では劣っているかもしれないけれど、人として見た時は一緒だし、感情は豊かでいいと思う。
- 日本は恵まれているんだ。世界の中でもぜいたくなのだと思った。
- 発展途上国の人やジンバブエの子ども達は勉強などしていないと思っていたけれど、一生懸命勉強をがんばっていることがわかった。
- 授業を受ける前はすごい事をしなければ（実際に現地に行くとか）手助けはできないんだと思っていたけれど、もっと簡単で身近な事で困っている人を助けられるということがわかった。
- 先生が写真でジンバブエの子どもがソーランの踊りを楽しそうにやっていたのが心に残っていて、その笑顔がうれしい。

☆変わったこと（授業を受けて自分の変化）

- 今まではいらなくなった紙などはすぐ捨てていたけれど、紙の裏も使うようになりました。それからジンバブエの子ども達のような笑顔っていいなと思いました。
- 視点を日本だけでなく、世界に向けるようになりました。日本に生まれたことも嬉しく思う。
- 最近、ものを買う時やお弁当を残した時など少し考えてしまうようになりました。自分に大きな変化はないかもしれないけれど、徐々に些細な事を見つめ直していけば大きな力となるのではないかと思いました。
- 何でも与えればいいと思っていたけれど、あたえるだけでは意味がなく、現地でも簡単にできることを教えなければならないと思った。
- 今は前よりも命を大切にすることへの考えが深まった。

☆これから・・・（自分はどうしたい）

- 日本ではあたりまえだと思っていたことが、全然あたりまえではなくて、びっくりした。あたりまえだと思ってもそれであらないので、一つ一つのことを大切にしていきたい。これから生きていく上で何か一つぐらい助けることをしたい。

- 今までは、大人が何か実行するものだと思っていたけれど、子どもでもまずは考えることができれば、それだけでもよいと思ったし、それなら自分でもできるから身近に感じました。
- 日本のように教科書をもらえるだけでも恵まれているのだとわかったから、もっと授業の取り組みを積極的にしようと思った。

「発展途上国」の人達に、私たちができることはどんなことでしょうか。

- 「夢」を与える → 夢があればがんばろうという気持ちになってできるから。
- 有名な人のサクセスストーリーは、夢につながるヒーローだから、自分がそういう人になる。
- 知識のある人をその国に送る。
- 身のまわりにある資源を大切に、相手の気持ちを知る。
- 募金
- 学校でやった靴を送る運動のようなものがある時は、協力する。
- 私たちが将来、関心をもって、発展途上国に行く。

<考察>

開発教育を始めた頃、青年海外協力隊のことを知らせようと思い、次のような質問をした。

- ①青年海外協力隊とは何か知っていますか。 → 9,5割の生徒が知らない。
- ②ボランティアや人のために何かをすることは好きですか → あまり関心ない、が約6割。

協力隊 OB の深山さんに講演していただいた中に、「私も普通の中学生だった。」という言葉があった。「じゃあ私もなれるの？」そんな夢が芽生えた。「知る」ことにより世界は広がる。ジンバブエもアフリカも知らなかった生徒が、身近な国に感じ、人としての共通の思いや生き方を感じ取っている。私も「開発教育」というものに初めて取り組んだので手探りの学習方法の中で、生徒も一緒に学習を深めてくれたように感じる。初めの頃と比べ、段々生徒の感想の言葉が変わってきた。思いの深さや自分の考えが表れてきた。「知る」ことから「わかる」ことへ、そして「深める」ことまでの進化が感じられた。知らないことを知る、という変化。やったことのないことをやる変化。目の前の生徒と共に考える時間や授業を創ることに向き合えた。「教える」というすごさと「育つ」すごさも感じた。「教育」のすばらしさを感じた。大切なものを教育と答えたジンバブエの子ども達に負けない位、今、その力とすごさを実感している。「教師」という仕事に就いていることを幸せにうれしく感じた。

またジンバブエで、よさこいソーランの授業ができたことは私にとって、大きな発想の転換となった。まず始めの壁は、音源。カセットデッキもビデオもない。音源に困り、実現は難しいのでは…と思ったが、同行の仲間のピアノやリコーダーの演奏により実現できた。普段、自分がいかに教育機器に頼っているか気付かされた。視聴覚機器の導入は教育現場にとって大切なことではあるが、その便利さに頼り過ぎてはいけないことを痛感した。

そして言葉のハンデをカバーするために、最低限必要なことを伝えるためには「イメージで躍らせる」ことに気づいた。特に、島国である日本だから生まれたソーラン節。それは生活から生まれた音楽であり、文化である。海のないジンバブエの子供たちにそれを理解してもらい、題名をつけてもらったところ、「God of Sea」という、海の神様への祈りという素敵なものが伝えられた。そして「ジンバブエにも生活から生まれた踊りがありますか？」と問うと、何組もの人が

積極的に次々とダンスを踊ってくれた。力強く足を踏みならし、躍動する踊り。そこにはテレや隣の子と同じようにするとういう真似は存在していなかった。ジンバブエの子どもと踊りながら、今までの自分が行うソーラン指導とは、「そろえること」や「いかに演出するか」というお祭りで見せるためのショービジネス的な視点に陥っていることに気づかされた。「学校で教えるよさこいソーランの魅力はもっと違う」と原点に気づき、大いなる収穫であった。その感触をもとに帰国後、本校の生徒に指導したところ、短時間で表現力が表れる踊りへと変化したように思う。これは学級ではなく、部活動で実践したことである。「自己表現力の違い」をジンバブエの子どもと日本の子どもにおいて感じてはいるが、「そろえる美」の日本文化と「個性を表す」ジンバブエの文化のそれぞれの魅力を発見することができた。互いの魅力を伸ばしていくために、それぞれを生かすにはどのようにしていったらよいかを今後の課題としたいと考えている。

開発教育 No.3・4 12・8(金)

ジンバブエを通じて私たちの生活を知らう
 ～「青年海外協力隊の人の活動から生き方を学ぶ」～

2年 2組 氏名(XXXXXXXXXX)

☆5校時

1. 大切なものランキング

仲間

自分のクラスは何だったかな？
 予想してみよう

考えたこと

前先生が「大切なものランキング」をやった時などは、
 「お金の意見が多かったのよ。またお金か一位なのかな？」と聞いていました。が「仲間」という意見が一位で、みんな考え方が変わったんだ、と思いました。

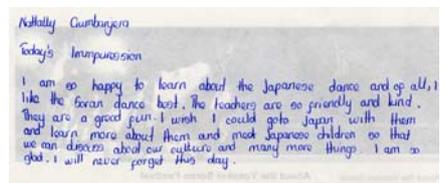
2. ミスターハシモトに手紙を書いてみよう。
 こんにちは！ 後陣学校の貝塚です。
 ジンバブエのお話を先生から聞いた時、私のイメージはまったく違っていました。所々というところも分かりました。私のイメージは、ビルのような高い建物はまったく「ワルン帯在記」によらぬ土作りのような家だと思いました。しかし、先生の写真などを見たに、高いビルがた(せんあり)ほど宮城県の仙台の町なみの様に思いました。(せむたいの町か、あつたなとどろいですが)
 きよ、ジンバブエは私のイメージはまたまた違うところがあると思います。なので、少しだけ実際に見てみたい。と思いました。ハシモトさんの事をきいて、ハシモトさんが教えてくれた、カエルのうた、ジンバブエの人とうた、てみたい。と思いました。私は、夕方の学校、などのかわいい歌が大好きなので、外国のうた、たら、どんな風になるのか？、と思いました。(変なことですか)
 ジンバブエの歌について、少し知りたいです。

3. 今日の授業からどんなことを学びましたか。

まず、物を大切に!!! と自分達はめがはれている。
 という事を学びました。
 ジンバブエの人は、必要なものがあったら新しいのを買って直す・作るというとても物を大切に作る = 地球にやさしい
 というおこないをしているということ。
 私も物を大切にしていきたいです。



文化祭でアフリカ民族音楽グループ「ジャンボ」が演奏。交流を深めた。



ジンバブエの子どもたちのよさこいソーランを踊った感想。



朝会后、手にタッチをして帰る生徒たち。目が合った子と始めたら、列になって全員がやり始めた。